

Q 8. 家計支出に占める教育費の割合

	合 計	一回目調査						無 回 答	合 計	二回目調査					
		現状よりかなり増える	現状よりやや増える	現状とほぼ変わらない	現状よりやや減る	現状よりかなり減る	無 回 答			現状より大幅に増える	現状よりかなり増える	現状よりやや増える	現状とほぼ変わらない	現状より減る	無 回 答
合 計	104 100.0	23 22.1	63 60.6	13 12.5	4 3.8	-	1 1.0	200 100.0	16 8.0	81 40.5	90 45.0	8 4.0	2 1.0	3 1.5	
性 別															
男	96 100.0	22 22.9	58 60.4	13 13.5	2 2.1	-	1 1.0	184 100.0	15 8.2	71 38.6	85 46.2	8 4.3	2 1.1	3 1.6	
女	8 100.0	1 12.5	5 62.5	-	2 25.0	-	-	16 100.0	1 6.3	10 62.5	5 31.3	-	-	-	
年 齢															
20才代	-	-	-	-	-	-	-	2 100.0	-	1 50.0	-	-	1 50.0	-	
30才代	6 100.0	2 33.3	3 50.0	-	1 16.7	-	-	11 100.0	2 18.2	3 27.3	5 45.5	1 9.1	-	-	
40才代	17 100.0	7 41.2	8 47.1	1 5.9	1 5.9	-	-	43 100.0	5 11.6	18 41.9	14 32.6	4 9.3	1 2.3	1 2.3	
50才代	14 100.0	3 21.4	9 64.3	2 14.3	-	-	-	37 100.0	3 8.1	19 51.4	14 37.8	1 2.7	-	-	
60才代	40 100.0	6 15.0	24 60.0	7 17.5	2 5.0	-	1 2.5	66 100.0	4 6.1	25 37.9	35 53.0	2 3.0	-	-	
70才代	23 100.0	4 17.4	16 69.6	3 13.0	-	-	-	37 100.0	2 5.4	14 37.8	19 51.4	-	-	2 5.4	
80才代	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	
90才代	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	

Q 8. 2010年における「家計支出に占める教育費の割合」はどれくらいの水準か？



第1回調査結果 現状よりやや増える【60.6%】 現状よりかなり増える【22.1%】
現状とほぼ変わらない【12.5%】

「やや増える」とした人が45.0%でもっとも多く、次いで「かなり増える」が40.5%となっている。「増える」と予測する回答傾向は変わらないが、「かなり増える」と予測する人の割合が第1回調査に比べて相対的に高くなっているのが特徴である。

<自由回答まとめ(1回目調査)>

Q 8. 2010年の家計支出に占める教育費の割合(生涯学習含む)の水準予測

Q 8-A. 予測の理由・根拠

[現状より増えると思う理由]

- ・塾や予備校への出費がかさむため。
- ・小学校からの私学志向が高まるため。
- ・日本人の教育信仰は変わらないから。
- ・広い意味で、教育期間が延長されるから。
- ・教育施設が多様化するため。
- ・情報ネットワーク機器など高価な物が発達するため。
- ・リカレント教育費の高まりのため。
- ・授業料が上昇するため。

[現状と変わらないと思う理由]

- ・保護者の生活程度が現状とあまり変わらないため。

[現状より減ると思う理由]

- ・国家予算が増えるため。

Q 8-B. その結果、何が最も変わるか

[現状より増えた場合]

- ・他の出費の切り詰め。
- ・コンピュータの各家庭への浸透。
- ・個人の能力の高まり。
- ・夫婦共稼ぎが常態化し、家族のイメージが変わる。
- ・生涯学習の増加。
- ・地域社会の緊密化。
- ・高校、大学入試の多様化。
- ・夜間大学院の人気が高まる。
- ・教育費を一度社会に出てから貯めて、大学院に戻る人が増える。

[現状より減った場合]

- ・私塾の倒産、私学の倒産。
- ・少子化の解消に向かってほしい。